



速報新聞

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

キマグレ

拡大版

たわごと

コロナに負けるな!

私はこう思う

未曾有の臨時休校を経て、新聞部員が何を考えたかを彦根東高校新聞のコラム「たわごと」の拡大版としてお届けします。みなさんは、今回の出来事をどう思いましたか。

かけがえない学校生活

抱えるやりきれなさ

突然決まった休校。私たちは不安を抱えながらも、どうにかその休校期間を過ごしてきた。もちろん休校が必要な措置だったことは理解している。だがなくなってしまう行事や部活動の時間、大会のことを考えるとやりきれないものがある。

私が今回の休校期間で改めて感じたのは学校生活がいかに有限で特別なものかということだ。新型コロナウイルスで休校が長引き、行事や大会がなくなるかもしれないと聞いた三月。頭ではそれを理解しているも心のどこかでは、なくなるはずがないと思っていたのかもしれない。実際になくなると

言われたときのショックは大きかった。

学校生活は一年経てば必ず環境が変わる。入学、クラス替え、引退、卒業。それは当然のことで、意識することはあまりない。だがその環境が一年もないとすると、すごく寂しく感じる。新型コロナウイルスの第二波でいつまた休校が再開されるかもわからない。限りある学校生活。なんとなく生活するにはもったいない。自分でできること自分がやりたいことを考え、実行して後悔のないように過ごしていきたい。例えば期間が短くなっても、そうして得たものはきつとかけがえない思い出として残るだろう。

(橙)

「学校」は変わるうとしている

新型コロナウイルスで私たちが失ったものは大きい。貴重な学生生活の中の約三ヶ月、授業が受けられず、友だちとも会えない時間が続いたのは本当に残念だ。社会全体で見ると、命を落とした人も、大切な家族を失った人も、仕事を失くした人もいる。まだまだ暗い話題が絶えないが、私は今、社会が大きく変わろうとしているのではないかと考えている。

今回のことで、オンライン授業やテレワークの重要性が再確認され、顔を合わせなくても勉強や仕事ができる設備が整えられた。新型コロナウイルスが終息したあと、今までよりもそういった設備が重要視されるのではないかな。もちろん同じ場所で一緒に勉強、仕事をするのはとても大切だ。仲間意識や協調性は、オンラインでは育まれにくいだろう。しかし、対人関係で悩み、どうしても学校へ行きたくない人や長期にわたっての入院が必要となった人に、オンライン授業という選択肢が与えられるとしたら、救われる人はきっといる。

学校の在り方は今、変わるうとしているのかもしれない。新型コロナウイルスが奪っていったものは大きい、残していったものもあるはずだ。それらを前向きに活用できたらいいと思う。

(灯)



改めて感じる

メディアリテラシーの大切さ

新型コロナウイルスが私たちに与えた影響は大きく、約3ヶ月にも及ぶ自粛を強いられた。また休校期間だけではなく、今後の学校生活に対する私たちの不安はまだまだ消えそうにない。その一方で学ぶべきこともたくさんあった。例えば今回の件で情報の真偽を見極める力の大切さを実感したという人は多いのではないだろうか。高校生でも1人が1台スマートフォンを持つというような時代になり、メディアリテラシーの大切さは

以前から叫ばれていた。しかし身近になりすぎたインターネットに対して、普段からメディアリテラシーを意識して接していたという人はそう多くないように思う。今回のように多くの人がデマに振り回されるといふ事態になったのもそういった背景があつたのではないだろうか。

新型コロナウイルスによって私たちの学校生活が失われてしまったことはとても悔しい。だが嘆いてばかりいても仕方がない。視点を少し変えてみるだけで様々な面が、ときには良い面も見えてくるはずだ。

(鈴)